

【中野市教育大綱】

- ひともの・ことと関わりながら学び合い、
 支え合い、未来を切り拓くたくましい子ども
- 1 「信州なかの」ふるさと学習の推進
 - 2 未来のふるさとを担う子どもたちを育むまちづくり
 - 3 小中学校教育の充実
 - 4 社会教育・生涯学習の充実
 - 5 文化財の保護

＜学校教育目標＞

かしこく
 やさしく
 たくましく

【目指す子どもの姿】

- ・聴ける子 伝える子 学べる子(学び合い)
- ・のびのびと表現できる子(言葉 歌 身体 図画工作 など)
- ・互いに認め合える子(自尊感情 他尊感情)
- ・挨拶する子
- ・粘り強く取り組む子
- ・願いを実現する子

◇ 学校運営の重点 「聴き合い 学び合う 学校づくり」

- 具現化 (1)子どもが、「わからない(どうやるの..)」 「どうしてそうなったの」と伝え、聴き合う関係
 (2)相手の考えや思いを聴き、相手の立場に立って考え、伝え、行動できる仲間づくり
 (3)地域の応援団と共に『学びの保障』と『安全・安心』の居場所づくりを進める開かれた学校

◇ 全校研究テーマ 「対話し 自己の学びを 深める子ども」

子どもが学ぶ授業 ～まずは教師が聴き、つなぐ 聴き合う関係を丁寧に築く わからなさを授業のスタートに～

重点1: 自ら考え 学び合う学校

- 「学び合い」による授業改善
 - ・聴き合う場・話し合う場の設定
 - ・「子ども理解」「教科の本質」を大切に教材研究・課題設定
 - ・「わからない」と言える教室づくり
 - ・子ども同士をつなぐ教師の居方
- 探究的な学びの保障
 - ・子どもの問いや願いから出発する、生活科、総合的な学習の時間
 - ・問いを生む学習展開
- 学習状況の把握と支援
 - ・NRT等で実態を客観的に把握・分析して、学力向上に向けた取り組みを行い、再評価
 - ・授業のねらいの明確化と子ども自身のこぼれによる振り返り
 - ・ドリルや家庭学習の効果的・計画的な活用
 - ・学習支援ボランティアとの連携
- ICTを活用した授業改善
 - ・授業でのタブレット利活用の研究と研修
 - ・タブレットを活用した家庭学習の工夫
 - ・情報教育の推進、情報モラルの啓発

重点2: 互いを認め合う学校

- よりよい人間関係づくりを生む集団
 - ・相手の話に耳を傾け、支え合う態度の育成
 - ・集団内で互いを認め合う場面の設定
 - ・Q-Uを生かした個のとらえと学級づくり
 - ・日常の人権教育と道徳教育
 - ・下級生への丁寧な対応と思いやり
 - ・異年齢交流の充実
(高丘タイム、体育集会、なかよしグループ活動、姉妹学級活動、連学年活動、縦割り清掃の取組など)
- 自己効力感を育む場面の設定
 - ・子ども自らが計画運営する学校行事の推進(運動会、遠足、音楽会、焼き芋大会 その他)
 - ・児童会活動、クラブ活動での提案や協力
 - ・互いのよさを発表し合う児童集会
- 一人一人に寄り添う相談・支援体制
 - ・児童、保護者の困り感を受けとめる相談体制
 - ・校内のリソースを活用した全校体制での支援
 - ・連学年会によるきめ細かな状況把握
 - ・SCやSSW等、外部機関との連携
 - ・計画的な支援会議と学びの場の見直し
 - ・特別支援教育コーディネーターの複数指名

重点3: 地域と共にある学校

- ふるさと学習の推進(地域との連携)
 - ・ふるさと高丘の地域学習を推進(高丘の歴史や特徴、地域産業など)
 - ・地域との福祉・交流学習の推進(こども園、高齢者施設など)
 - ・動物飼育、植物(カンナ等)や果樹栽培などの体験的な学習とキャリア教育
 - ・地域への積極的な情報発信(フェイスブックでの活動紹介、学校公開)
- 信州型コミュニティスクールの充実
 - ・「高丘っ子応援団」(ボランティアパトロール・読書ボランティア・高丘っ子サポーター)の積極活用
 - ・外部講師によるクラブ指導
- 地域の声や学校評価を活かした取組
 - ・児童、職員、保護者、地域にとってウェルビーングな学校をめざして、学校運営の見直しや修正

＜目指す教職員の姿＞

「チーム高丘」でつくる 子どもも 大人も 楽しい学校

- (1) 子どものわからなさをスタートに、訊きあう子どもをつなぎ、学び合いを推進する教職員
- (2) 一人一人の子どもの個性を理解し、適切な支援をチームで考える教職員
- (3) 連学年会や研究・研修を通して、同僚性を育み、学び合う教職員
- (4) 業務改善や非違行為根絶に取り組み、子どもと向き合う時間を大切にしている教職員
- (5) 高丘の地域を知り、保護者や地域と連携し、子どもの学びを創り出す教職員

信州型コミュニティスクールへCS

＜保護者や地域の願い＞

子どもを真ん中に 協同する学校・PTA・CS

- (1) 子どもたちの安心・安全に
 - ・登校班の整備と交通安全街頭指導、ボランティアパトロール
 - ・地域の危険箇所の把握と関係機関との情報共有、改善点
- (2) あいさつあふれる地域に
 - ・大人同士がまずあいさつ
 - ・ライオンズクラブによる隔月1回のあいさつ運動
 - ・校外子ども会などでの振り返りと呼びかけ
- (3) 学校と地域のつながりを深めるために
 - ・参観日以外も、いつでも学校へ
 - ・「高丘っ子応援団」への登録
 - ・ふるさと学習推進にかかわる関係団体や資料の紹介

評価

- 児童アンケート: 次の項目の肯定評価の増加「学校が楽しい」「授業がよくわかる」「自分の考えを発言」「聞く・訊く」「友だちから大切にされる」「自分の考えを発言」「だれかに相談できる」
- 保護者アンケート: 次の項目の肯定評価の増加「学校が楽しい」「学び合いをしている」「あいさつする」「相談を伝えやすい」
- NRTの全国平均に対し、前年比+3ポイントの向上